

## *Naegleria gruberi* NEG-M と EG がコードする光活性化アデニル酸シクラーゼの解析

喜多彩香<sup>1</sup>, 梶野隆嗣<sup>2</sup>, 山守 漢<sup>2</sup>, 八木田 健司<sup>3</sup>, 安川 洋生<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>富山大・工, <sup>2</sup>富山大・院理工, <sup>3</sup>国立感染研・寄生動物)

**【要旨】** *Naegleria gruberi* NEG-M の全ゲノムが解読され, 少なくとも 3 種の光活性化アデニル酸シクラーゼ (PAC) 様タンパク質 (NgPAC1, NgPAC2, NgPAC3) をコードしていると判明した。そこで, これらのタンパク質を大腸菌で発現させ, 活性を調べたところ, いずれも光照射により活性が上昇した。*N. gruberi* EG におけるオーソログの探索を PCR により行った結果, *N. gruberi* NEG-M の遺伝子とは異なる 5 種類のオーソログの部分的な塩基配列を決定できた。